

「佐々木嘉則賞」について

第二言語習得研究会会長 坂本 正

佐々木嘉則賞は、2011年1月に53才という若さで生涯を終えられた元お茶の水女子大学准教授佐々木嘉則先生の業績、ならびに、本会への貢献にちなんで創設された賞で、本ジャーナルに掲載された論文（寄稿などを除く）を授賞対象としています。本ジャーナル第14号（2012年12月刊行）に掲載された論文から授賞が始まり、今回が第6回の授賞となります。

本賞は、佐々木先生の遺作『今さら訊けない…第二言語習得再入門』（2010、凡人社）の印税を一部とすご遺族からの寄付金を基に創設されました。佐々木賞選考委員会が選考した候補論文を幹事会が承認した後、全国大会の場で発表、表彰することになっています。寄付金相当額の20分の1を副賞に当て、寄付金がなくなった時点で賞は終了となります。

生前、佐々木先生は、本「第二言語習得研究会」の幹事、広報委員等を務め、会の発展に多大なる貢献をなさいました。本研究会のますますの発展のためにご尽力下さった佐々木先生の御遺志がこのような形で途絶えることなく生かされていくことを願っています。

第6回 佐々木嘉則賞の授賞について

第6回佐々木嘉則賞の受賞論文、および、選考理由は以下の通りです。

論文題目：漢字学習における空書の効果

—非漢字圏日本語学習者を対象として—

著 者：吉田篤矢・菅谷奈津恵

選考理由：

本論文は、非漢字圏日本語学習者を対象に、漢字学習における空書の効果を、書字による効果と比較しながら検討したものである。これまでの空書研究における課題を踏まえた綿密な実験計画に基づいて、漢字の字形学習、読み学習における空書の学習効果を検証している。

論文では、漢字の再生テスト・読みテストを通して空書の効果を検証しており、画数の多い漢字について特に空書の効果が高いこと、空書によって読み学習が阻害されることはないことなどを明らかにしている。著者自身も指摘するように遅延テストの実施や練習回数の統制など検証すべき課題は残されているが、今後の研究の発展が見込める。また、漢字の書き取りなど無批判に行われがちな漢字学習に客観的な裏付けをもたらすものとして、日本語教育・学習への貢献も大きい。

よって、本論文を第6回佐々木嘉則賞受賞論文として選考する。

要 旨

漢字学習における空書の効果 —非漢字圏日本語学習者を対象として—

本研究は、非漢字圏日本語学習者を対象として、漢字の字形及び読み学習における空書の効果を検討することを目的とする。調査では、漢字を空中もしくは机上で書いて練習する「空書」と、紙面上にペンで繰り返し書く「書字」を学習条件とし、これらの学習方法が漢字の再生課題と読み課題に対してどのような効果を持つかを検討した。学習対象には、画数が多い漢字と少ない漢字を設定した。調査の結果、再生課題では、漢字の画数によらず、書字よりも空書が効果的であることが明らかになった。加えて、再生課題における下位群で、より空書の効果が発揮されることがわかった。一方、読み課題では、漢字の画数によらず、空書と書字の学習効果に違いは見られなかった。また、再生テストと読みテストの漢字別平均点間の相関から、字形学習と読み学習の関連が示された。

The Effect of Air Writing on Learning Kanji:

A Study of Japanese Learners coming from a Non-Kanji Orthographic Background

This study aimed to investigate the effect of kusho (air writing) for learning kanji shape and reading by non-kanji orthographic background learners. There were two methods in this experiment: the “kusho method” where a person writes kanji in the air or on the desk, and the “writing method” where a person writes kanji on paper with a pen repeatedly. The experiment investigated the effects of these learning methods on kanji writing and reading tasks. Kanji which have many strokes and few strokes were used as learning objects. The study revealed that the kusho method is more effective than the writing method for the writing tasks irrespective of the number of strokes of the kanji. Furthermore, kusho proved to be more effective for learners who scored lower on the writing task. On the other hand, no difference was observed between the learning effects of the kusho method and the writing method for the reading tasks irrespective of the number of strokes of the kanji. Also, the correlation in the average scores for each kanji between the writing and reading tasks revealed that learning the kanji shape is related to learning its reading.